勝賀岩（160m）と宗賀岩（190m）

いわき市四倉町

勝賀岩という名前は、寛永３年、名僧勝賀和尚が焼失した金光寺本堂再建のため、白岩の砂岩洞窟にこもり座禅托鉢をいたと言われることに由来する。松茸の産地として名高い四倉町玉山・白岩地区にある。白亜紀双葉層郡玉山層の砂岩の山で、奇岩が塀立する山頂からは太平洋が一望できる.

ワンダーファームコース

常磐道四倉ＩＣ近くのワンダーファームから常磐道のトンネルをくぐると舗装が切れる。そのまま進みワンダーランド、貯水池を過ぎると道が二股になるので車をここに置き林道歩く。林道が切れ右側の尾根を忠実にたどると岩の頂に出る。山頂はその先、もう少し進むと標高約160mの勝賀岩。

薮気味の尾根を辿り、標高 190mの三角点のあるところが宗賀岩。勝賀岩まで約 45 分、そこから宗賀岩まで約 15 分。

白岩コース

いわき浪江線（県道 35 号線）を常磐道の下をくぐると間もなく作業道の入口がある。ここに車を停めて歩き始める。白岩川を渡渉し作業道を忠実に辿り約 40 分で勝賀岩に着く。

玉山コース

玉山鉱泉を過ぎ旧八茎鉱山に向かっていくと右側に観光案内の看板が立っている駐車場がある。ここから歩き始める。

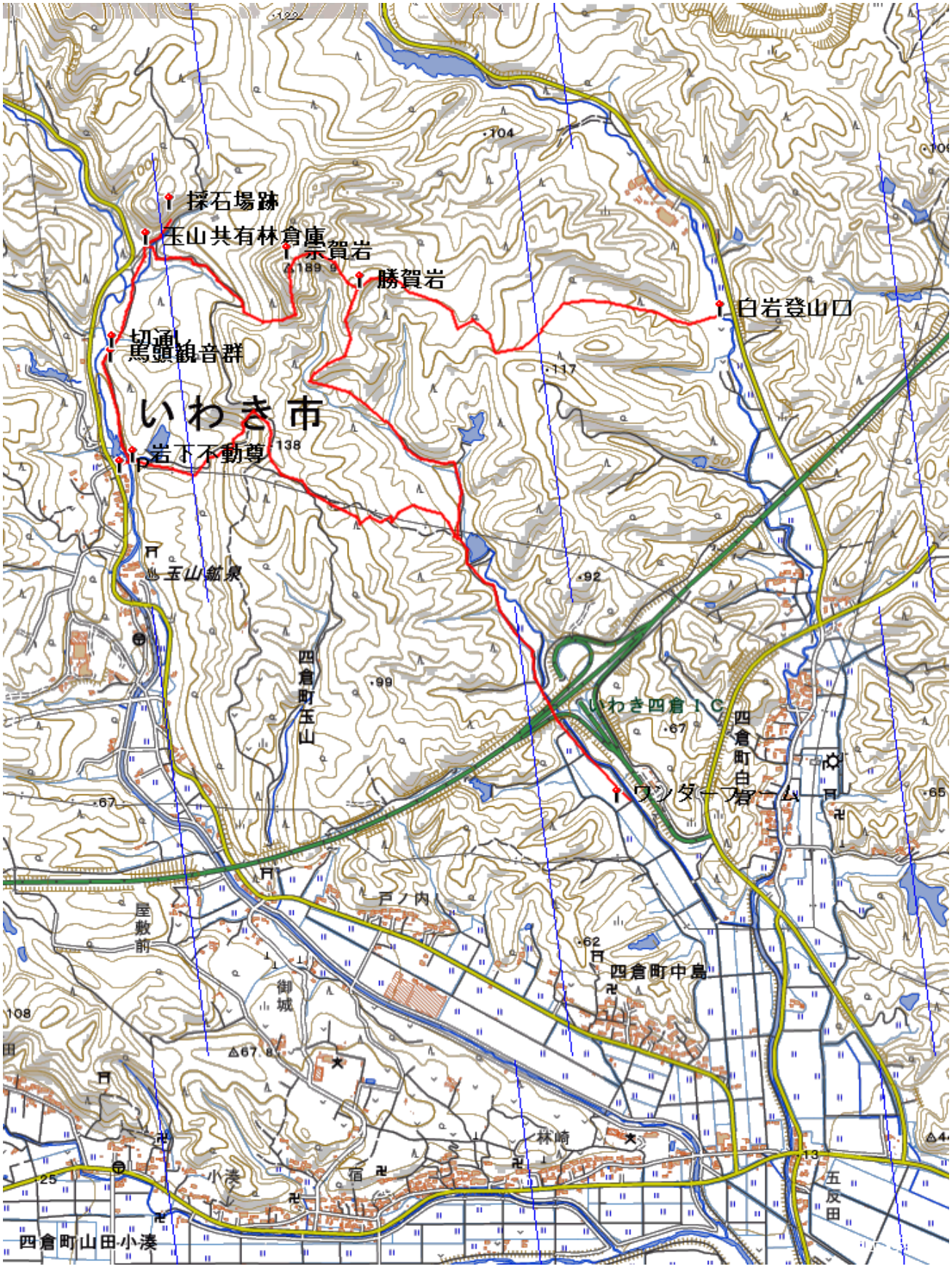
堰を渡ると玉山岩下不動尊、玉山の「松茸狩り場」を過ぎると馬頭観音群を見ることができる。玉山村史によると、路の険しさに命を絶つ馬も多かったらしく、近隣の五村（上二井田、下仁井田、塩木、戸田、中嶋）が資金を出し合って掘削し、明治５年に馬頭観音を祀ったとある。

岩の切通を越すと玉山共有林の貨車を改造した倉庫のある広場に出る。広場から作業道を北に進むと、産業遺産と言える地元の銘石**「日の出石」**採掘跡地の岩壁を見ることができる。

広場から右の作業道を辿り、途中から藪をかき分けの尾根に取りつき宗賀岩へ、約 30 分。

＊日の出石　四倉町周辺の墓地では、ベージュ色の古い砂岩の墓石をよく見かける。この石は、かっていわ

き市四倉町玉山地区で採掘されていた日の出石です。

墓石以外にも、土木資材や建築用の石材として、また戦中には防空壕の土留めなどにも利用されたそうですが、終戦とともに採掘は終了しました。風化に強い砂岩で古くなっても文字がくっきり読み取ることができます。

東京大学安田講堂のエントランス部分に豊富に使用されており、風化した石材の表面には、動物が砂の中をはいまわった跡である、とてもきれいな生痕化石が見られるそうです。